



ラズベリーの農作業体験機会の提供

- 食料自給の大切さや、農業の重要性、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動に理解を深めるため、次世代を担う幼児や児童を中心とした若い世代に対し、農作業等体験を行う機会を提供し、食育の推進を図っている。
- 25年度からの継続事業であり、隣接する幼児施設の幼児や保護者、地域住民等で植え付け、収穫体験を行った。また、他地区からも体験者の受入を行い、地域内でも好評なため、27年度は畑を造成し、体験農場を拡大した。

【取組の内容】

農作業等体験の機会の提供の実施状況

JA山形おきたま飯豊地区青年部が主となり、農業技術普及課の果樹専門員の指導や地域の農業者に協力いただきながら休耕田を畑地化し、子供たちが果樹の植え付けから収穫までの体験ができる体験型果樹園を開園し、体験教室を開催した。



地域の方・園児と植え付け作業



女性部と園児の収穫体験

【取組の成果】

園児のみならず、農業を体験する機会の少ないその親世代や高校生に体験する場を提供するとともに、収穫物を用いた調理メニューを考える機会を与えるなど、広い世代へ食への関心や農林漁業への理解を深める活動となっている。

農作物としてはラズベリーを継続して取り上げ、子どもや若い親世代が興味を持ちやすいものを選んでおり、体験者数が増加し食と農業に対する教育が進展することが期待される。



高校生による農作業体験



ラズベリーを使ったおやつ作り

農作業等体験の機会の提供の実施状況

- ・実施回数 24回
- ・参加者数(延)307名